

ゼミで学んだこと

2004年10月～2005年8月受入交換留学生
韓国カトリック大学経営学部 4年
柳 恩永 (リュウ・ウニョン)

「～てもらう」。この語法は、日本語学習者が日本語を勉強するとき、一番迷うところではないかと思う。私もやはりそうだった。その理由はおそらく、私たちが日本語に染みこんでいる日本人の性格をよく知らないまま日本語を学ぶためではないだろうか。自分に「～してくれる相手」のことを高め、自分のことはへりくだるような「～てもらう」という表現。日本で暮らすうちに、日本人のそのような国民性を理解できるようになったうえに、私にも、その考え方が染みこんでからは、やっこの表現を自由自在に使えるようになった。これは、日本に来たからこそ得ることができた、何よりも大きい収穫であろう。これ以外にも日本に来たからこそ、そして、信州だったからこそ得ることのできた様々な経験があるが、それは、他の留学生とも重なる部分が多いと思うので、そちらを参考にしてもらいたい。私は、日本だけで経験できるゼミという学習システムについて述べていきたいと思う。ゼミは韓国にはないシステムである。私の個人的な見解ではあるが、勉強の時間数、つまり、量的な面は韓国のほうが日本に比べて多いのに対し、その効率、つまり、質的な面は、落ちるだろうと思う。これは、半年間、ゼミを体験しながら最も、感じたことである。ゼミこそが高校と大学の教育方法に差をつけるものではないだろうか。私は、経済学のゼミに出たため、他の学部とは少し違うところもあるかもしれないが、基本的な枠組みは共通していると思われる。ゼミを通じて学習したことや感じたことは数多くあるが、その中のいくつかを述べることにする。

まず、第一に、自己学習の面での向上である。私はゼミが自己披露の場だと感じた。もちろん、先生から何か学ぶことを求めてゼミに来るという理由もあるだろうが、それよりも、ゼミでは自分がどれくらい勉強しているか、どれくらい知識を持っているかが表されるため、常に自らいろいろな知識を蓄積しておかなければいけないのである。私が出ていたゼミの場合は、毎週水曜日に勉強会があった。そこでは、みんなが教科書の同じところを読んできて、分からないところがあれば先輩に聞いたり、また、みんなにある程度の知識が揃っているだろうという前提

で勉強がより進んだりすることもあった。万一、学習をしてこないと同級生や先輩に迷惑をかけることになってしまうため、自分で一生懸命勉強するようになる。また、火曜日のゼミの授業では、勉強会で学んだことを背景に、実際の事例とともにレジュメを作り各班ごとに発表が行われた。発表が終われば、レジュメの問題点を鋭く指摘したり、良い方向を提示したりする活発な討論が続く。そこはまさに自己披露の場であった。その討論はある程度学習して来なければ、参加できないためである。そして、討論に続き先生のコメントを頂く。それで、学んだことを完全に自分の物として吸収でき、ひとまわりの学習チェーンが終わる。ゼミは毎週このような形で繰り返される。その中で、自己学習面において向上することができた。

第二点目は、競争心理を刺激する場だということである。第一の内容にも重なるが、勉強会や授業の討論の場で、皆が自分の知識を掘り出し話すことにより、自分の足りないところや相手の優れている部分が見えて、競争心理に刺激を受ける。そして、それがきっかけでますます勉強するようになるのである。このようなことは、一時的ではなくゼミが終わるまで続く。

第三に、チームワークの強さである。ゼミは個人個人の学習ではなく、皆に影響を与えたり、与えられたりしながらお互いに成長していく。そのなかで、自然にチームワークを学ぶことができる。私が出ていたゼミの人数は、2年生が11名、3年生が10名で、授業は2年、3年とも一緒に受ける形で進んだ。それで、3年生は2年生の助けとなってあげたり、間違えたところがあれば厳しくしたりしながら、ある意味では2年生のセメントとして地位を固めていく。また、個々人がお互いにどうすれば、ゼミという組織の効率が向上するか、そして、どうすれば自分が役に立つことができるか、などについて常に自ら考え、ともに話し合う。このようなことは全部チームワークにつながるのではないだろうか。

第四には、先生との強いつながりである。ゼミの中では、「ほうれんそう」という共通認識があるが、これは、先生に対する「報告・連絡・相談」を徹底的にするという意味である。また、個人個人が先生に卒論を指導してもらったり、就職についての相談をすることにより、先生の経験を参考にすることもできる。

最後に、第五点目は、人脈ネットワークの構築である。ゼミは何年も続けて同じ先生の指導下で行われているため、先生により見ず知らずの社会人の先輩とも共有意識をもつようになる。私が出た鈴木ゼミでは、毎年一回OB（卒業生）会というものが開かれているが、それは、すでに社会人になっている先輩と、まだ学生であるゼミ生たちが交わり合う場である。そこで、いろいろな先輩の社会経験や就職当時に悩んだことなどを聞き、または相談もすることによって自分には何が向いているかというのを見つけることもできる。また、実際に就職をする際の学生としては得ることのできない情報をもらったりするなど、助けて頂ける場合

も多い。そのようなことが、何年も繰り返され、ゼミでなければできない膨大な人脈を構築することが可能になる。

このような良い特徴をたくさんもっているゼミというシステムが、韓国にないことは、残念なことだと思う。幸いながら、私は日本に来て、素晴らしいゼミというシステムを経験することができた。私がゼミに参加したのは、半年に過ぎない短い期間だったため、上で述べたこと以外にも、学ぶところはまだまだたくさんあるだろうと思う。人文学部での指導教官である沖先生は、学問上の友達は永遠の助け合う友達として残るとおっしゃっていた。私がゼミで付き合い合った友達もそのように残ってくれるだろう。留学をしにきて、韓国では経験できないことを満喫するのも重要であるだろうと思うが、日本での学問上の友達を作ってみることもぜひおすすめしたい。